

第5学年B組 道徳科学習誘導案

教諭 楠木 文太郎

主題 広い心で

【B 相互理解, 寛容】 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに, 謙虚な心を持ち, 広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。

<教材:「折れたタワー」 出典:日本文教出版>

(本校教育課程 道徳科主題 第10項 6月下旬 1時間)

主題にかかわる児童の実態

○ 児童の実態

本学級の子どもは, 相手の失敗や過ちを責めたり, 非難したりするべきではないと考えている。実際に, 係活動のポスターを作成中, 誤ってポスターを破ってしまった相手に, 「描き直せばいいから大丈夫。」と声をかける姿があった。そのことについて, 「わざとではないし, 責めると相手が嫌な気持ちになるから。」と話す姿があった。また, 休み時間に, 友達の蹴ったサッカーボールが体に当たったとき, あやまる相手に対して, 「仕方ないから, 気にしないでいいよ。」と伝える姿があった。そのことについて, 「痛かったけれど, がまんすればいいことだから。」と話す姿があった。このように, 子どもは, 相手が失敗や過ちを犯したときには相手の思いを考えて, または, 無条件に許そうと考えている。

一方で, 相手が失敗や過ちを犯したことで自分の不利益になるときは, 厳しく責めたり, 非難したりする姿も見られる。このことが原因でトラブルにつながることも少なくない。このように, 子どもは, 自分の利害損得に基づいた行動をしてしまう姿も見られる。

以上のことから, 子どもは, 相手の失敗や過ちを許すべきだという思いはあるものの, 自分も失敗や過ちを犯すことがあるからと考えて許すべきであるとの思いまでには至っていない。また, 行為の結果だけで判断してはいけないことを理解しつつも, その動機に目を向けるまでには至っていない。

○ 行為の背景

この期の子どもは, 知的側面においては, 抽象的・論理的な思考ができるようになり, 過ちであれば許すべきであると考えられることができるようになる。また, 行為の結果のみを重視しがちだった子どもも次第に行為の動機をも考慮できるようになり, 中には正当な動機であれば, 自分が被害を受けても許すべきだと考えられることもできる子どももいる。このような発達の特性から, 子どもが相手の失敗や過ちに対して, 相手の思いを考えて, または, 無条件に許そうとすることができるのは, 自分の利害を度外視して相手の立場に立って考えようとする心が育ってきているからである。

一方で, 相手の失敗や過ちを厳しく責めたり, 非難したりしてしまうのは, 自分のものの見方・考え方は絶対であるとして, 自分の価値判断に固執しているからである。

これらのことから, 子どもは, 相手が失敗や過ちを犯したときに, 自分も同じ過ちを犯すことがあるからというように, 相手の中に自分を見て, 自分の中に相手を見る力が十分に育まれておらず, 人は決して完全ではないという人間観にも気付いていない。つまり, 他者と共によりよく生きようとする際の「広い心で」という価値観が十分に形成されていないと考える。

○ 学級集団の問題解決能力

子どもは, 相手が失敗や過ちを犯したときには, 一方的に責めたり, 非難したりせずに許すことが仲間との豊かな人間関係を築くためには大切だと考えている。子どもがそのような関係を築くためには, 自分とは異なる意見や立場を広い心で受け止めて生活することが大切になってくる。しかし, 子どもは, 自分本位な行動をしてしまったり, 相手の失敗や過ちを許すことができずにトラブルに発展してしまったりすることがあり, 自分たちの問題をよりよく解決することができないときも少なくない。

そこで本主題を設定し, 相手が失敗や過ちを犯したときには, 自分も同じように失敗や過ちを犯すことがあるからと自覚し, 相手の立場や思いを推し量って考えることの大切さを感じ得できるようにすることで, 自律的な判断をしようとする学級集団の高まりを期待したい。

主題の社会的意義と価値観

○ 主題の価値

同じ集団に属している人にはそれぞれ個性があり、それぞれのよさを発揮しながら共に集団生活の維持・向上に努めている。そのような中で、他者と共によりよく生きていくためには、自分と異なる立場や考え方、感じ方に出合ったときに、広い心で受け止めて尊重することが欠かせない。寛容とは、相手の言動を受け入れること、相手の過ちや欠点を厳しく責めたり非難したりしないことと解される。寛大な心をもって他の人の過ちを許すことができるのは、自分も過ちを犯すことがあるからと自覚しているからであり、自分に対して謙虚であるからこそ、他人に対して寛容になることができるのである。過ちを許すというとき、「わざとではないから許してあげよう」などと安易な考え方に終始することが多い。しかし、どんなことでも無条件に過失を許容することは、真の寛容とはいえない。許すべきでないことはどこまでも許さない、見過ごすべきでないことはどこまでも見過ごさないという自己の立場を確立、主張することも必要である。このように考えると、「広い心で」とは、自分も過ちを犯すがあると自覚して、相手の立場や思いを推し量ることで、他人の過ちを受け止めようとする心の有り様である。

高学年の子どもは、自分のものの見方・考え方についての認識が深まり、相手との違いをこれまで以上に意識するようになる。そこで、「広い心で」相手の過ちを受け止めようとする態度を育むことは、自分や相手に対する見方・考え方を深めるとともに、多様で親密な人間関係を築く上で意義深いと考える。

○ 主題の社会的意義

子どもに関わる重要な教育課題の一つに、いじめの問題が挙げられる。同じ集団に属していても自分の考えに固執し、自分と異なる立場や考え方、感じ方を受け入れることができずに排除しようとする傾向に警鐘が鳴らされている。人は、自分中心に物事を考え、他人の立場や思いに目を向けず、他者をないがしろにしてしまうことがある。また、自分の立場を守るため、つい他人の失敗や過ちを一方的に責めたり、非難したりしてしまうなど、自己本位に陥りやすい弱さをもっている。このような人は、社会的に信用されないばかりか、他者との良好な関係を築くこともできずに摩擦ばかりが生じることとなる。このような状況では、一人の人間としてよりよく生きることはできないのである。

そこで、本主題を設定し、他の人の過ちに対して自分も同じように過ちを犯すことがあるからと考えることの大切さに気付き、広い心で生活しようとする構えをもつことは、上述した現代社会の課題に対する一助となり、大変意義深いことであると考えられる。

○ 主題と学級経営のかかわり

本学級の目標は「協同」である。自分の役割に責任をもち、互いに助け合いながらよりよい学びやくらしをつくりだそうとする学級を目指している。子どもが共に目標を達成しようとする過程で、過ちを犯してしまうことも少なくない。そのときに、自分も過ちを犯すことがあるからと自覚し、相手の立場を推し量って考えることが大切になってくる。立場や考え方の違う相手を広い心で受け止めることが他者とのよりよい関係をつくることになり、自分の役割を果たそうとする学級集団へとつながっていく。このことから、本主題は学級目標である「協同」に迫ることができる大変意義深い内容であると考えられる。

教材の価値

本教材は、主人公のひろしが図工の時間に作ったタワーをのりおが床に落として壊してしまう。しかし、ひろしは「わざと落としたんじゃないんだろ。しかたないさ。」と言って、責めたり非難したりしないで清掃を続けるという話である。主人公のひろしは、給食当番のマスクを忘れた。それを知ったのりおは、ひろしを厳しく責める。数日後、清掃をしていたのりおのほうきの柄がひろしの作品に当たり、床に落として壊してしまう。のりおの様子を見たひろしは、「あのときのぼくと同じだな。」と思い、「しかたないさ。」と、のりおを責めずに許すという内容である。このような場面・状況や登場人物の思いを自分の経験と重ねてとらえ、相手が過ちを犯したときには、どのような考えを大切にすることが望ましいのかを考えることで、広い心で生活をしようとする態度を育てることができる本教材は大変価値がある。

目 標

<知識及び技能>

- 他人の失敗や過ちに対して自分も同じように過ちを犯すことがあるからと自覚し、一方的に責めたり、非難したりしないで、他者と共に広い心で生活することの大切さを理解することができる。

<思考力, 判断力, 表現力等>

- これから先、相手が過ちを犯したときに、よい関係を続けるには、どのように考えるとよいのかについて、自己を見つめながら多面的・多角的に捉え、これからの自分の生き方や在り方についての考えを深めることができる。

<学びに向かう力, 人間性等>

- 「広い心」で生活することについての理解を基に、自分との関わりで「相手が過ちを犯したときに、どのように考えることが大切なのか」について追求しようとする。

誘 導 の 着 眼

【着眼1】 価値追求への構えをもつ経験を想起する活動への支援

導入段階において、「相手が過ちを犯したときに、どのような考えを大切にするとよいのだろう。」という問題意識を喚起し、「広い心」について追求する構えをもつことができるように、以下の活動を設定し、支援を講じる。

	○ 相手が過ちを犯したときの経験を掘り起こし、そのときの思いを想起する活動
支 援	<ul style="list-style-type: none">・ アンケート結果を基に、経験と思いを想起する発問・ アンケート結果に基づいた意図的指名・ 問題意識を喚起する発問 「自分がすっきりするから、相手を責めてもよいですね。」

【着眼2】 「広い心」について多面的・多角的に追求する学び合いへの支援

展開前段において、相手が過ちを犯したときに大切にしたい考えを追求することができるように、以下の学び合いを設定し、支援を講じる。

	○ 登場人物の「のりお」の思いや行為の背景を基に、「これから先、どのように考えるとよいか」について考え、多面的・多角的に追求する学び合い
支 援	<ul style="list-style-type: none">・ 教材中の道徳的な場面・状況を明確にする板書・ 多様な道徳的価値観を表出する発問 「これから先、相手が過ちを犯したときに、のりおはどのように考えるとよいのでしょうか。」・ 考えを書く活動の設定と思考ツールの活用・ 考えの参照と交流活動の設定・ 子どもが表出した価値観を分類、整理した板書

【着眼3】 自己をふり返る活動への支援

展開後段において、捉えた道徳的価値に照らして自己を見つめ直すことができるように、以下の活動を設定し、支援を講じる。

	○ 自分の経験をふり返る活動
支 援	<ul style="list-style-type: none">・ 「相手が過ちを犯したとき」に大切にしたい考えをまとめる活動の設定・ 自己のよさを自覚する発問 「相手が過ちを犯したときに、あなたはどのように考えて、どうしましたか。」・ 考えの参照・ 事前のアンケートを活用した意図的指名

- (1) **ねらい**
他の人の過ちに対して自分も過ちを犯すことがあるからと考えることの大切さに気付き、相手の立場や思いに立って責めたり非難したりしないで広い心で生活しようとする態度を育てる。
- (2) **準備**
教材「折れたタワー」、場面絵、学習プリント
- (3) **展開**

学習活動と子どもの意識	誘導上の留意点（○）と評価（※）
<p>1 本時学習の方向性について話し合う。</p>  <p>ぼくは相手が過ちを犯したときに、しかたないからと考えているな。 どんな考えを大切にするとよいのかな。</p> <p style="text-align: center;">相手が過ちを犯したときに、どんな考えを大切にするとよいのだろう。</p> <p>2 教材「折れたタワー」を基に、「相手が過ちを犯したとき」に大切にしたい考えを追求する。</p> <p>(1) マスクを忘れたひろしを許せない「のりお」の思いを出し合う。</p>  <p>のりおさんは、忘れ物をすることで、みんなに迷惑がかかることが許せなかったと思うよ。</p> <p>(2) 過ちを犯した「のりお」の思いを出し合う。</p>  <p>ひろしさんの大切にしている作品を壊してしまって、大変なことをしたと思っていますと思うよ。</p> <p>(3) のりおを責めなかったひろしの思いや行為の背景を基に、これから先、相手が過ちを犯したときに、のりおはどのように考えるとよいかについて考え、話し合う。</p>	<p>○ ねらいとする価値を追求する構えをもつことができるように、相手が過ちを犯したときの経験やそのときの思いを想起し、問題意識を喚起する発問を行う。 【着眼1】</p> <p>○ 相手の過ちを許せない「のりお」の状況を捉えることができるように、大きな声を出してひろしを責めたときの「のりお」の思いを出し合う場を設定する。</p> <p>○ ひろしの作品を壊した「のりお」の状況を捉えることができるように、小さな声であやまったときの「のりお」の思いを出し合う場を設定する。</p> <p>○ 「広い心」について、多面的・多角的に捉えることができるように、どのように考えることがよいかを交流する場を仕組み、考えを分類・整理しながら板書する。 【着眼2】</p>
<p>これから先、相手が過ちを犯したときに、のりおさんはどのように考えるとよいのでしょうか。</p>  <p>ぼくは、相手があやまったら許してあげると考えるとよいと思うよ。なぜなら、きっと相手は、反省しているのだから。</p> <p>わたしは、わざとではないと考えるとよいと思うよ。なぜなら、過ちを犯すのはしかたないことだから。</p> <p>わたしは、自分も過ちを犯すからと考えるとよいと思うよ。なぜなら、誰でも過ちを犯すことはあるのだから。</p> <p>ぼくは、自分も嫌な気持ちになると考えるとよいと思うよ。なぜなら、自分が同じように責められると悲しくて悔しい気持ちになるから。</p> <p style="text-align: center;">あなたは、どの考えがすっきりしますか。</p> <p>わたしは、自分が同じ立場だったらと考えることです。なぜなら、責められた相手の思いを考えると、わたしも同じように嫌な気持ちになるから。</p> <p>ぼくは、自分も過ちを犯すからと考えることです。なぜなら、誰でも過ちを犯すことがあると考えると、相手を責めることもなくなるから。</p>	
<p>3 これまでの自分をふり返り、大切にしたい考えをまとめる。</p>  <p>ぼくは、自分も過ちを犯すことがあるからと考えることを大切にしたいです。</p> <p>4 本時の学びをふり返る。</p>  <p>今日の学習で、相手が過ち犯したときには、自分も過ちを犯すからと考えることが大切だと思いました。これまで、相手の過ちを許せずに責めてしまうことが多かったので、これからは、自分も過ちを犯すことがあるからと考えると、相手の過ちを責めない自分を伸ばしたいと考えました。</p>	<p>○ 「広い心」についての自己を見つめ直すことができるように、大切にしたい考えをまとめる活動を設定し、自己のよさを自覚する発問をする。 【着眼3】</p> <p>○ 実践への意欲を高めることができるように、「学んだこと」「これまでの自分」「伸ばしたい自分」の3つ視点を提示する。</p> <p>※ 相手の立場や思いに立って責めたり非難したりしないで、広い心で生活しようとする態度を記述している。</p>